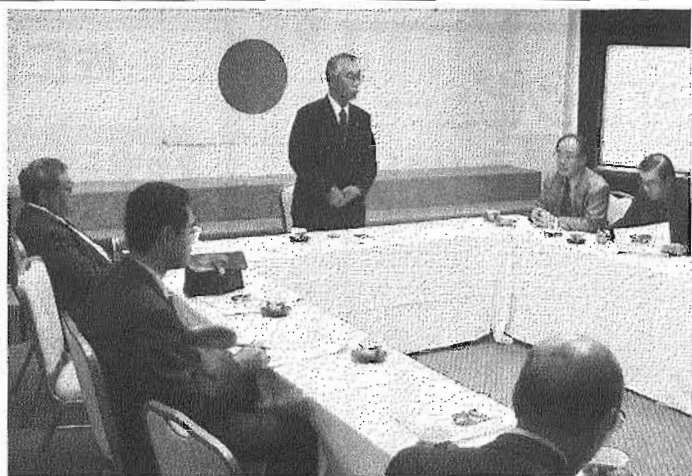


県鋼橋梁建設工事協会 中間例会

10周年へ一致団結を

県鋼橋梁建設工事協会(会長・石塚俊雄)丸和工業社長)は10日、鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで16年度中間例会を開き、関係機関への陳情活動を推進していくことなどを申し合わせた。



陳情活動の推進等を申し合わせた中間例会 =鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで

大島工高生現場見学会 安全への気配り体感

県建設業協会奄美支部 奄美支部

会が10日、大島郡大和村の大和ダム建設現場などであり、大島工業高校建設工学科1年生26人が実際の工事を肌で学んだ。見学会には、協会事務局2人のほか県大島支庁の竹之下幸伸土木課技術補佐と県協会の日高修一郎業務部長が同行。出発前に竹之下技術補佐は「実際の現場を自分たちの目で見て工事が何のために行われているのか、その目的を知ってほしい」と挨拶した。

最初に訪れた大和ダム建設現場では、大島支庁河川港湾課の廣田俊一主



組まれた外階段を上る高校生ら =瀬戸内町の県営住宅新築現場で

ら概要とダムの目的や種類などの説明を受けた後、

高校生らは高所から現場を見下ろしながら作業状

況や内容についての詳しい話を真剣な表情で聴いていた。瀬戸内町の県営住宅新築現場では足場として組まれた外階段を屋上まで上り、危険個所での作業でいかに安全に気を配らなければならぬかを肌で実感していた。一行は午後から住用村の下役勝拡張工区の見学も行った。



木質バイオマスの活用などを学ぶ参加者ら =鹿児島市のかごしま県民交流センターで

かごしまウッドディック・フォーラムは10日、鹿児島市のかごしま県民交流センターでKWF講演会を開き、関係者ら約100人が出席、森林資源の活用状況や今後の方策など、最前線の情報などを学んだ。

森林資源の活用状況等

KWF講演会

資源から生産される木質資源をバイオマス資源として活用する方策や研究の最前線の情報に真剣に耳を傾けた。講演では、大場龍夫(森のエネルギー研究所代表取締役)が「森林エネルギーの利用ー今とこれからー」を説明した。

県は社会資本の役割や整備の必要性を広く知っ

況などを利用した。状況などを説明した。

引続き、来賓の県商

所環境バイオマス研究所主任研究員が「木質バイオマス新素材ー間伐材が生まれ変わる!ー」と題し、それぞれ講演した。大場氏は森林エネルギー利用の現状と今後の展望、森林資源活用への期待などを解説。また、遠藤氏は間伐材を木質バイオマスチップに転換するための課題や、木質セルロースの特徴、木質バイオマスチップの現状などを分かりやすく説明した。

垂水中生現場見学会 社会資本の役割認識

鹿屋土木



楽しみながら植樹を行う生徒ら =垂水市の現地で

定例会では、市来洋太郎事務局長が16年度の中間事業報告をはじめ、会員の落札状況、各要望事項などについて説明。会員の協力により、活動は順調に推移していると報告した。このほか、今後発注が見込まれる物件のうち、対応可能なものについては積極的に参加す

ることや、引き続き関係機関への陳情活動を推進していくことなどを申し合わせた。

また同日は、定例会終了後に忘年会も開かれ、今年1年間の労をねぎらった。

鹿屋土木事務所は7日、垂水市で整備を進めている垂水港の緑地で、垂水市立垂水中学校の1年生30人を対象に現場見学会と記念植樹を行い、社会資本の役割などを学んだ。

式では、初めに福永校長が「厳しい訓練に耐え修了式を迎えられたことは大変喜ばしい。皆さんが同校で学んだ技術・技能を今後社会に最大限に生かしてほしい」などと式辞を述べた。次いで、修了生代表の今村哲郎さんに修了証書を授与、11人に皆勤賞、8人に感謝状が贈られた。

九州地方整備局大隅河川国道事務所は13日午後3時から、国道224号の鹿児島市古里町下村(桜島)について片側通行を解除し2車線通行が可能になると発表した。

13日から 2車線通行

大隅河川国道

18人が晴れの修了証書

鹿児島造園技術専門学校

鹿児島造園技術専門学校(福永好森校長)は9日、鹿児島市吉野町の同校で委託訓練第59期生の修了式を開き、18人全員が6カ月間の訓練期間を終え晴れの修了証書を手にした。

式では、初めに福永校長が「厳しい訓練に耐え修了式を迎えられたことは大変喜ばしい。皆さんが同校で学んだ技術・技能を今後社会に最大限に生かしてほしい」などと式辞を述べた。次いで、修了生代表の今村哲郎さんに修了証書を授与、11人に皆勤賞、8人に感謝状が贈られた。

式では、初めに福永校長が「厳しい訓練に耐え修了式を迎えられたことは大変喜ばしい。皆さんが同校で学んだ技術・技能を今後社会に最大限に生かしてほしい」などと式辞を述べた。次いで、修了生代表の今村哲郎さんに修了証書を授与、11人に皆勤賞、8人に感謝状が贈られた。

式では、初めに福永校長が「厳しい訓練に耐え修了式を迎えられたことは大変喜ばしい。皆さんが同校で学んだ技術・技能を今後社会に最大限に生かしてほしい」などと式辞を述べた。次いで、修了生代表の今村哲郎さんに修了証書を授与、11人に皆勤賞、8人に感謝状が贈られた。

当日は、北風が吹き肌寒い天候であったが、生徒たちは10人ずつ3班に分かれ、造園業の現場代理人から指導を受けながら3本のヤブツバキを植樹した。植樹後、現場代理人から「時々木の成長を見においで」と声を掛けられた生徒は、「見に来るよ」と笑顔で答えていた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。

最後に、修了生を代表して今村さんが「先生方の熱いご指導のもと一生懸命に頑張り、全員でこの日を迎えることができました。同校で学んだことを、最大限に生かして日々精進して参ります」と力強く謝辞を述べた。